

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

- 核廃絶への思い語り合った 「青年のひろば」でのスピーチ (3面)
- 核兵器なくすため行動したい 全国高校生平和集会 (6、7面)
- 「平和のとりで」としての大学「軍学共同」を許さないたいかいを (10、11面)

あらゆる人々と連帯し、核兵器のない世界へ

今年の原水爆禁止世界大会は、6月に核兵器禁止条約の第1回締約国会議が開催され、8月に核兵器不拡散条約(NPT)第10回再検討会議が開かれる最中に行われました。核兵器を持つロシアはウクライナへの侵略を続け、核使用の威嚇までしていますが、これに対し国際世論は反対の声を上げ続けています。3年ぶりの被爆地現地開催となった大会の様子と、核兵器廃絶への青年の声を取材しました。(文中は一部仮名、齊藤崇記者)



▶「青年のひろば」では、全国の青年が核廃絶への思いを語り合った(5日)

原水爆禁止世界大会2022 広島

ゆるがぬ世界の流れ

世界最大の核兵器を持つロシアは現在、ウクライナへの侵略を続け、核使用の威嚇をしています。これは国連憲章に基づく国際秩序を揺るがし、核戦争の危険を高めるものです。国連のグテレス事務総長は核兵器禁止条約締結を呼びかけました。

全保障のために、この脅威を完全に除去することが必要」と発言。「今すぐ行動を起し、大声で真実を語り、核軍国主義の政治・経済システムに対して責任を問いましょ」と核廃絶に向けて連帯を呼びかけました。

核兵器禁止条約第1回締約国会議議長のアレクサンダー・クメントさんは、「第1回締約国会議は充実した内容で、大きく成功した」と報告。核抑止論に対して「ウクライナ平和主義運動事務局長のユーリイ・シエリアセンコさんは、「核弾頭が地球上の生命を抹殺する脅威となっている。多くの国々の立場を代弁したものであると確信

している。核軍拡競争は非常に危険で、私たちの共通の安全保障を損なうもの」と強調し、核軍拡を進める流れを運動で変えようとうたった。

各国の代表の発言を聞いて、愛知から参加した田島さん(大学1年)は、「核軍拡の問題は、自分ではどうにもならないと思うこともあったけれど、世論を動かしていった話を聞いて励みになった。自分も日本の世論を変えてみたい」と話しました。京都から参加した日村さん(高校2年)は「日本でも禁止条約に政府を参加させるためにいろいろな運動をやっている人がいる。自分も署名など何か



▲各国政府や、運動団体の代表者のスピーチを聞く青年

核保有国に核廃絶を迫ろう

世界大会では、NPT再検討会議に参加する核保有国に対し、核軍拡競争の停止と核軍備撤廃交渉を定めたNPT6条や、「核兵器のない世界」の実現を確認したこれまでの再検討会議の合意の速やかな実行を求める発言が多数ありまし

「核戦争の危険を回避するあらゆる努力をする」とうたってNPT再検討会議は「核保有国の核廃絶の明確な約束」など重要な合意をす

「核保有国がすでに合意した約束をNATO加盟国であるべ



▲ヒロシマデー集会にて、核兵器廃絶に向けてスピーチする人に連帯の声を上げる参加者(6日)

(2面につづく)